

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成29年 1月23日更新

事務事業名	学童クラブ等障害児受入事業		<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連		
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	健康福祉部	課長名	三苫 幸喜
	施策	19	子どもを見守り、育てる地域づくり	所属課	子育て支援課	担当者名	木場田 可織
	施策の柱	57	子育てと仕事の両立支援	所属班	子ども保育班	(内線)	2318
予算科目	会計一般	款3	項2	目4	事業連番11442	根拠法令	合志市学童クラブ等障害児受入事業実施要綱
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 27年度で終了 <input type="checkbox"/> 27年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		(開始年度	18年度)
				<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度		(~年度)

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	<p>発達障害児等の障害児を受入れている放課後学童クラブに対して、専門知識等を有する障害児対応指導員を派遣し、障害児の保育支援を行う。</p> <p>放課後学童クラブで発達障害児等の障害児を受入れる場合、これまでは障害児受入れ加算として学童クラブを運営している保護者会への補助金に上乗せして補助していたが、国の制度変更により障害児の受入れ体制を強化するとして、専門知識等を有する障害児対応指導員を市が派遣若しくは育成することに変更されたため、この事業が必要となった。また、平成27年度より障害児を5人以上の受入を行っている学童クラブに対して、専門的知識等を有する障害児対応支援員を複数配置することで放課後児童健全育成事業の円滑な実施を図ることを目的とし新たな事業が追加された。補助金の負担割合は国県市各1/3。</p>
【業務の流れ】	①事業打合せ ②事業施行伺い ③事業委託契約伺い ④委託契約書締結 ⑤支出負担行為 ⑥実績報告書・請求書受付、審査 ⑦支出命令書
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	放課後学童クラブにおける障害児の受入れ体制の強化について、議員からの一般質問がなされている。(H19第4回定例会) 学童クラブからも、発達障害の恐れがあるいわゆるグレーゾーンの子どもが近年急増しており、指導員の確保のためにはぜひ本事業を実施継続して欲しいとの意見が出ている。

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動)(DO)	28年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
市内学童クラブの15クラブに委託した。うち、5人以上の障がい児を受け入れた学童クラブは4クラブであった。	前年度の15クラブに加え、平成28年4月より開設される学童クラブ(西合志南第3、合志南第4・第5)受入れが見込まれるため合計18クラブと委託契約を行う見込みである。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 放課後学童クラブ数	→ クラブ: 国基準額の増及び対象クラブ増に伴う委託料の増額。
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
学童クラブが受け入れている障害児数	(単位) → ア: 学童クラブの受入れ障害児数 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
安心して子育てができる。	(単位) → ア: 障害児を受け入れている学童クラブ数 クラブ
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠	
障がい児童を受け入れている学童クラブに対して実施する事業であるため、学童クラブ数とした。	
総トータルコスト 全体計画 ~年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	25年度	26年度	27年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
			実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込	
① 活動指標	ア	クラブ	13	14	15	15	16	16	16	16	
	イ										
② 対象指標	ア	人	22	27	27	40	27	27	27	27	
	イ										
③ 成果指標	ア	クラブ	12	14	15	15	16	16	16	16	
	イ										
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円				10,842	13,695	12,235	12,235	12,235
		都道府県支出金	千円	11,812	15,993	16,390	10,842	13,695	12,235	12,235	12,235
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	人件費	一般財源	千円	7,484	6,953	8,195	10,844	13,698	12,238	12,238	12,238
		(A) 事業費計	千円	19,296	22,946	24,585	32,528	41,088	36,708	36,708	36,708
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	1	1	3	1	3	3	3	3
延べ業務時間	時間	150	150	0	150	150	150	150	150		
(B) 人件費計	千円	597	597	0	556	0	0	0	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	19,893	23,543	24,585	33,084	41,088	36,708	36,708	36,708		

事務事業名	学童クラブ等障害児受入事業	所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
-------	---------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 障がい児童を受け入れている学童クラブ全てに委託したため達成できた。
	②28年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 障がい児童を受け入れている学童クラブ全てに委託するため目標達成の見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 障がい児童を受け入れに伴う県主催指導員研修等が年数回実施され、参加することによって指導員の質の向上に努めた。また、平成26年度より本市においても研修会を実施している。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 放課後児童学童クラブで障がいのある児童の預かりを行う事業であるため他に類似する事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 現在の額は、国の定める基準以内で設定している。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 現在、最低限の職員で対応している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 本事業の対象は障害児童を受け入れる学童クラブ自体であるため、当該事業を行うことでクラブ全体の子どもの健全育成につながっているため公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 支援を要する児童の預かりであるため、責任の度合いが大きく役割分担は適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

障がい児童や発達障害の恐れがあるいわゆるグレーゾーンの児童がいる学童クラブに、県が実施する講習会に参加した専門知識を要する指導員を配置することで適切な支援ができた。また、本市においても研修会を実施した。国の制度では、クラブ単位での補助であるが、放課後児童健全育成事業実施要綱の改正により、新たに障害児受入強化推進事業 (5人以上受け入れる場合) が追加され、本市においては4クラブが該当し、事業を実施した。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案) ・ ・ ・ 複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						